

いわみざわ

発行 地 人
 岩見沢駐屯地 集
 編集 務 班
 司令 業 務
 司 令 報 告 広

群持久走大会

六月四日、十一日の二回にわたり第十二施設群の持久走大会が行われ、壮年の部(四十才以上)青年の部(三十九才以下)に別れて日頃の体力を競いあつた。



成績表

青年の部		壮年の部	
優勝	芳賀 二曹(器中)	優勝	近藤 一曹(本中)
準優勝	大宮 二曹(本中)	準優勝	長崎 二尉(七中)
三位	北嶋 士長(七中)	三位	茂生 一曹(器中)

群銃剣道練成訓練始まる

八月七日、富良野市において開催される全道銃剣道選手権大会に備え、群は優勝を目指し、毎日猛訓練を実施している。

本訓練の教官(山本三尉)は次の決意を本紙に上せている。
 「この訓練の担当を命ぜられた私は、過去幾度かこの種訓練に参加の経験はあるものの、教官としては初めてのことであり、いかにして優勝、修めようかと心を砕いている、当初予定していた若手選手要員を多数繰成するということは、日程の関係で遅延く群集中野営と重なり不可解の状態となり、大会参加さえ危ぶまれた程だが、各隊から選抜をされた少教精鋭で臨むことになつた。」

これから約八週間の予定で訓練をする訳であるが、昨年良好な成績をあげているだけに、今年はずっとしても負けられないところである。大会はどうしても団体戦に重点を置くため各選手個々の技向上はもとより、チームワークの強化という点も重要な要素となるが、この点、幸いにもベテラン助教、佐藤一曹以下、選手要員全

8日、23 群集中野営・矢白別
 行10日 参議院議員選挙
 の16日 同志獲得強調月間
 月19日、21 定時監察(駐 業)
 今 21日、22 歳成ハイム海浜支援

てが経験豊富な者でしめられているため、本番においては、必ずや最大限の力を発揮してくれるものと信じている。
 最後に選手諸君の奮闘を期待すると共に、皆様方の御支援、御せし援をお願いする次第である。



美唄市福祉スポーツ大会支援

六月十九日、美唄市において、福祉スポーツ大会がおこなわれた。本大会は身障者、老人クラブ、等の入連を一同に会し、太場の下で思いきり汗を流し体力を向上させよう、という趣旨で、美唄市で計画運営され本大会の支援を駐屯地司令に依頼、部隊では早速、第十二施設群第三三七中隊に支援を命

じ支援隊長福村一曹以下十名が支援を実施した。
 又隊員のキビキビした支援態度に美唄市民に好感を与え、大会は無事終了した。



栗沢町自衛隊協力会

が隊内見学

六月八日、栗沢協力会三十名が駐屯地に来訪、營内の施設及び武器等を見学した後、隊員と同じ部隊食を味わつた、始めて食べる部隊食に栄養の点は、カロリーはどの位?と係官に質問、味の厚りは如何ですかと聞いたらしいです、の連絡: 食事後資料館を見学し、旧軍の資料等に音をし、のび、十四時離隊した。

協同訓練を終えて、六月十三日、十五日の間、南恵庭において、三施設の協同訓練指導法が実施された。
 我が十二施設からは三三五中隊が指定され、課目は「応急渡河」(分隊長以上の指揮官訓練)と決まつた、又、十普通連、十一特及び一戦車団より中、小隊長が、本訓練を支援してくれることになつた。一般に、戦闘団を編成し、普特機を支援することの多い師団施設大隊と違つて、施設団の中の各部隊は、他職種との協同訓練の機会に限られており、訓練は施設中心の訓練が行われがちだと言われている。今回は、このように反省のもとで実施されたわけであるが、本訓練を終えるにあつたつての所見を述べてみたい。

(一) 教範を統んでも「応急渡河」というイメージが湧いてこず、最後までやんだこと。
 (二) 普、特、機の行動の概要がわかつたこと特に普通科中隊長は、戦闘指導等において、小さいことまでで神経が行きとどいており渡河支援を実施する上にも、大変教えられる事が多かつた。

(三) 砂盤の作成及び砂盤の特性と限界。第三施設から砂盤を借りたわけであるが、一部不足する地域があつたため、小隊長以下の努力で立派な砂盤ができた事。及び盤を利用して実施する教育は、指揮手順及び予行等部隊運用の訓練には適するが、技術的な訓練には大きな制約を受けることが再認識できた。
 最後に種々御指導をして下さつた運用訓練幹部に紙面をかりて謝意を表します。
 三三五施設隊長

フワリ・大空へー ヘリコプター体験搭乗

駐とん地は、六月二十日、十一師団航空隊の支援を得て、ヘリコプターによる体験とう業を実施した。この日とう業した副力会員や功労隊員の夫人等二十五名は、殆んどが「初めての体験」だけに緊張し通してあつたが、フワリと浮かんだ空中散歩に大満悦。わが郷土、わが家の上空写真撮る者、ウットリと天女の夢を遊ばせる者など、地上に降り立つまでは正に上の空の気分だつた。



体験搭乗

その後、史料館の見学や部隊食の試食など、いずれも初めての体験すくめて目まぐるしい一日ながら充実した一日をすごした。

希望に胸ふくらませ 新隊員後期教育始まる

六月二十七日、九月二十一日の予定で開始した、新隊員後期教育は、北海道六名、本州及び九州から九名の計十五名を受け入れ、教育が開始された。若さ一杯の新隊員諸君、健闘をいのる。

ラッパ手 果立つ

すでに実施されていたラッパ手養成訓練は、六月二十八日、総合訓練の検閲を受け、贈られて全員ラッパ手として認定された。部隊の士気を鼓舞するラッパ手今後の活躍を期待したい。



吹奏行進するラッパ手

諸隊健闘

駐とん地バレーボール 大会終る

晴天のもと、若見沢駐とん部隊の各隊対抗バレーボール大会は大熱戦の末、諸隊チームが栄光をかちとつた。

成績は次のとおり

- 優勝 諸隊連合チーム
- 準優勝 三〇四ダンプ中隊
- 第三位 本部長隊



補給だより

業務隊は五月十二日の自隊補整検査の実施に続き、五月二十四日からの会計監査管理検査、六月二日からの各種技術検査を受検し、現在一段落したところであり、この機会に皆隊方に直接関係のある主要な装備品等の補給計画と糧食費について紹介したいと思います。

一 衣服等

戦闘服は五十二年度は三八五着補給されます。これを一人当りに換算しますと〇・七着という更新率になります。半長靴は二八七足補給され更新率は〇・五足となります。いづれも非常に低い更新率でありますので、衣服等は大切にしていかなければならないと思えます。

三 糧食費

現在食事は六三四円で行動しております。昨年度は六七二円でありましたので実質一日三十八円のダウンになっており、今年度は非常に苦しい状況にあります。このような状況のもと食事の質的低下につながるまいよう関係者一同鋭意努力しております。

読みおわったら家族 知人にみてもらおう

そこで、という訳ではないが、駐とん地では六月十五日から七月十七日の間を服務規律刷新月間に定め実施中である。

流行はくり返す、の言葉どおり近頃又ミニスカートが流行し始めている、我々男性にとつては嬉しい？流行である。北海道も雪の多い季節から一筆に暖い春、そして夏への衣がえの時期である、この時期は一種の開放感から思つてもみないような事故がおきる事

編集後記

六月は、各種競技会、各種部外支援と多忙な月であつた。七月は、群集中野営と各種部外支援がギッシリつまつたスケジュール、ここで一番大事なこととは、一人々の健康、暴飲暴食をつつし、ベストコンディションで任務に、隊務にまい進しよう。

来月号は群集中野営の特集です、投稿をお願いします。
司令業務班 西畑